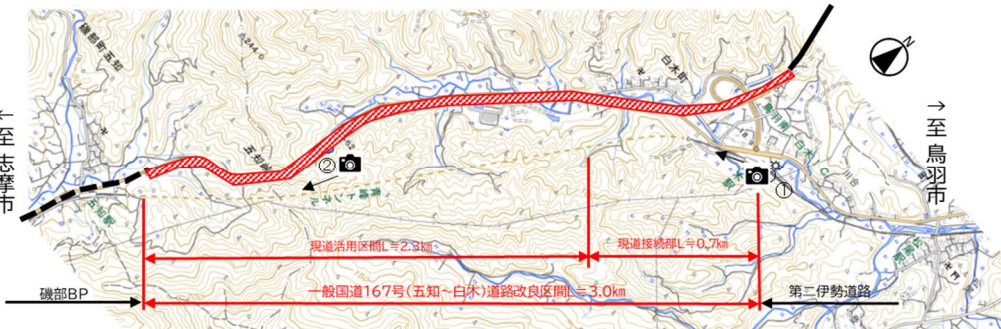


新規事業採択時評価結果(令和7年度新規事業化箇所)

担 当 課：	道路局 国道・技術課
担当課長名：	西川 昌宏

事業の概要

事業名	地域高規格道路 伊勢志摩連絡道路 一般国道167号 五知～白木	事業区分	一般国道	事業主体	三重県
起終点	自:三重県志摩市磯部町五知 至:三重県鳥羽市白木町	延長	3.0km		
事業概要					
伊勢志摩連絡道路は、近畿自動車道伊勢線及び伊勢二見鳥羽ラインと一体となって、伊勢志摩地域の高速交通網を形成する地域高規格道路である。					
当該道路は、伊勢地域と志摩地域を相互に連絡する「伊勢志摩連絡道路」の一部に該当し、伊勢市・鳥羽市・志摩市の連携強化を図る広域道路ネットワークを形成するための延長約3.0kmの事業である。					
事業の目的、必要性					
当該道路では、生活や観光等多様な交通が利用しており、交差点を先頭とした交通混雑は、地域間交流や観光周遊に支障をきたしているに加え、緊急時のリダンダンシーや速達性に課題がある。また、対象区間には構造令を満たしていない箇所が存在し、走行時の危険挙動が多発しており、安全性にも課題がある。					
当該道路の整備により、高規格幹線道路における線形不良区間が解消され、「伊勢志摩連絡道路」の全線整備により高サービス水準の提供が可能であり、渋滞軽減による地域間交流・観光周遊への支援や、災害時の道路ネットワークの確保、救急搬送への支援、安全性の向上等、地域間連携強化による効果が期待される。					
全体事業費	約40億円	計画交通量	約13,100台／日		
事業概要図					
位置図  					

関係する地方公共団体等の意見

沿線自治体で構成される「伊勢・志摩連絡道路建設促進期成同盟会」より、早期整備の要望が行われている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

—

対応方針(採択理由)

費用便益費が2.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。 また、「伊勢志摩連絡道路」の全線整備によって高水準のサービスの提供が可能であり、渋滞軽減による地域間交流・観光周遊への支援や、災害時の道路ネットワークの確保、救急搬送への支援、安全性の向上等、地域間連携強化による効果が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。 以上により、本事業は令和7年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。
--

事業評価結果(総合評価)

事業採択の前提条件
☑便益が費用を上回っている
☑事業実施環境が整っている

費用 便益 分析	B/C		(参考)	EIRR	総費用	34億円	総便益	74億円	((参考) 時間信頼性向上便益: -億円 CO2排出削減便益: -億円	感度分析		基準年
	(参考)	[4%]	2.2	8.8%	〔事業費: 34億円 維持管理費: 0.2億円 更新費: -億円〕	〔走行時間短縮便益: 67億円 走行経費減少便益: 5.6億円 交通事故減少便益: 1.3億円〕	交通量変動	B/C= 2.0～2.4 (変動ケース: ±10%)		令和6年		
		[2%]	3.3				事業費変動	B/C= 2.0～2.4 (変動ケース: ±10%)				
		[1%]	4.2				事業期間変動	B/C= 2.0～2.2 (変動ケース: ±20%)				

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cは を対象とした場合の値、() 書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([] 内は社会的割引率の値)

事業の 影響	評価項目		評価	根拠									
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	交通円滑化 対象区間の整備により、志摩伊勢連絡道路での信号交差点が解消され交通円滑化に寄与できる。(R3センサス混雑度:1.07)									
		事故対策	○	安全性向上 対象区間の整備により、現道における線形不良箇所が解消され、伊勢志摩連絡道路の一連区間の走行性が向上し、現道及び交通転換が想定される伊勢道路の安全性向上が期待できる。 過去5年(R1～R5)人身事故件数 国道167現道:7件(内重大事故1件) 伊勢道路:26件(内重大事故7件)									
		歩行空間	○	■歩行者・自転車走行区間の確保 新たな自転車歩行者道の整備により、歩行者・自転車走行区間が確保され、利便性、安全性が改善する。									
	社会全体への影響	住民生活	◎	■第3次救急医療機関への搬送経路確保 対象区間の整備により、毎年雨量規制で通行止めを強いられる伊勢道路の代替路が確保され、志摩方面から第3次救急医療機関である伊勢赤十字病院への確実な救急搬送が約束できる									
		地域経済	◎	■観光周遊性の向上 伊勢志摩連絡道路の全線整備は、令和15年神宮式年遷宮による更なる観光客増との相乗効果が図られ、地域全体に亘る観光周遊の更なる促進が期待できる。									
		災害	◎	■災害時のリダンダンシー ・対象区間の整備により、毎年雨量規制で通行止めを強いられる伊勢道路の代替路が確保され、円滑・確実な道路ネットワークの形成に寄与する。(伊勢道路通行止め実績:11.2時間/回)									
		環境	-										
		地域社会	○	■地域住民の利便性向上 ・路線全体において地域高規格道路に資するサービス速度の提供が実現でき、地域間連携の更なる強化が期待できる。(志摩市⇄伊勢市、志摩市⇄鳥羽市)									

事業実施環境
「伊勢・志摩連絡道路建設促進期成同盟会」から早期整備の要望を受けている。